

秋田遠景近景

日銀秋田支店長コラム

スポーツは自分で参加するのも観戦するのも大好きだ。秋田の地に来て、久々に当地チームを応援する喜びと、負ける時の悔しさを味わっている。ラグビー・バスケット、サッカーで多様なプロチームや社会人チームが先導し、500歳野球の活況や学生スポーツの裾野も広い本県は、「スポーツ立県」の名にふさわしいと言える。そんな中、長年懸案とされていたサッカースタジアムの本格的な協議が始まることに注目が集まるのは自然な流れだろう。

私の故郷鹿児島も、神村学園が全国高校選手権で優勝するなどサッカー熱はそれなりに高いが、Jリーグ基準を満たすようなスタジアム建設問題は迷走を続いている。候補地が二転三転し、建設費捻出に四苦八苦しているところも似ている。

洋の東西を問わず、スタジアム建設費は巨額なことから、さまざまな論争を引き起こしてき

た。自身で見聞きした例では、2012年ロンドン五輪のメイン会場として建設されたオリンピック・スタジアムは、五輪後、地元サッカーチームのウェンブリッジ秋田を含む民間からも相応の資金調達が求められることで、國民による税負担を抑えようとした。

昔留学していた米サンディエゴでは、MLBパドレスとアメリカンフットボールのチャーチャーズが一つのスタジアムを共用していくが、老朽化を受けてパドレス

は、人口減少がどの地域でも課題となる中、スタジアムの建設費や維持費に多額の資金を投じた場合、それが中長期的にどのような意義をもたらすかについて、地域全体での十

かる可能性が高い。人口減少のトレンドが続き、納税者も減っていく中で、年間約1億円と予想される維持費を負担するのも大変だ。また、スタジアムが

場合であれ、総工費の約3割が地方自治体負担となる上に、プラウブリッジ秋田を含む民間からも相応の資金調達が求められること、だろうか。

秋田市は昨年行われた国勢調査で人口30万人を割りそなごとから、事業所税が徴収できなくななる可能性が高い。人口減少のトレンドが継続、納税者も減少していく中で、年間約1億円と予想される維持費を負担するのも大変だ。また、スタジアムが

に代えられるものではなく、本

県にとつても必要なプライドの醸成でもあり、次世代のスポーツ文化を育む大切なゆりかごでもあると思う。

サッカーの話に戻ろう。サン

フレッチェ広島の本拠地として2024年に開業したエディオスペースウイング広島も、実に15年以上にわたる議論を経てようやく実現したという例がある。00年代初めに建設が検討されて以降、サンフレッチェは主に森保一監督の指揮の下、連覇を含むJ1優勝3回、まさに実力でチームの存在意義を証明してみせた。

プラウブリッジ秋田も、健全

経営で必要な運営収入を確保しながら、ひたむきなプレーで本県を盛り上げ、スタジアム建設を大きく前進させるような活躍

期待したい。

（種村知樹・日本銀行秋田支

新スタジアム



生産的議論で合意形成を

は市と新球場を造り、一方チヤージャーズが求めていたアメフト用の新スタジアム建設は住民投票で否決され、チームごとロサンゼルスに移転していくた。

分な理解を得る必要がある点だ。また、本県にはすでに約2万人を収容可能な多目的競技場のソユースタジアムが存在するが、Jリーグ専用ではなく、客席の屋根やトイレなどいくつかの点でJリーグ基準を満たさないこ、ほかにも、改修する場合と新規に建設する場合の費用がほぼ同額になり、地元自治体にとって「お得」な選択肢はないこ、最近でも、男子バレーの雄物川高ベスト4進出に快哉を叫んだ

フットボール専用として利用用途が限定されることも、理解を得にくい部分かもしれない。このような課題に対しても、例えば陸上競技場との併用を可能とするスタジアム設計の柔軟性を検討するなど、Jリーグ側と協力しながら模索を重ねていくことも重要だ。

課題ばかり列挙したが、スポーツを通じた地域活性化や地元愛の高まりは、確かに存在する。最近でも、男子バレーの雄物川

店長

（種村知樹・日本銀行秋田支店長）

△随时掲載△